

赤ちゃんはカゼをひかない! ?

— 免疫の話 —

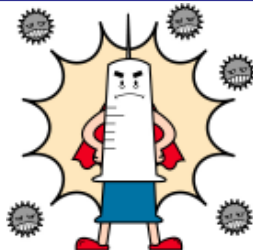
院長

2~3ヶ月の赤ちゃんがカゼで来院すると、決まって「赤ちゃんはカゼをひかないはずでは？」と質問されます。赤ちゃんはカゼをひかないのでしょうか。今回は、赤ちゃんのカゼを例にあげて、免疫について考えてみましょう。

確かに、「赤ちゃんはカゼをひかない」ということはよく聞きます。これはある意味正しいし、ある意味間違っています。麻しん(はしか)の記事を以前に掲載したことがあります。昔は麻しんは“命定め”と呼ばれ生死を分けるような重要な病気でした。この時代では、ほとんどの人が麻しんにかかり、生き残った人は免疫を獲得します。麻しんの免疫を獲得すると、終生免疫といって免疫が持続するため再びかかることはありませんでした。免疫を獲得した女性が妊娠すると母体の免疫が胎児に移行して、赤ちゃんは麻しんの免疫をもらって生まれてくるのです。お母さんからもらった免疫はずっと続くものではなく、6ヶ月程度で消えてしまいます。この免疫が、6ヶ月未満の赤ちゃんが麻しんにかかるのを防いでくれるのです。こんなことから、いつの間にか赤ちゃんはカゼをひかないということに結びついたのかもしれませんが。お母さんからはたくさんの免疫をもらって赤ちゃんは生まれてきます。しかし、カゼのウイルスは200種類もあり、お母さんがすべてのウイルスの免疫を持っているはずはありません。お母さんがカゼをひくと赤ちゃんにうつってしまいます。お母さんがカゼをひくのは免疫を持っていないということですから、当然赤ちゃんにも免疫がないということです。という理由で赤ちゃんもカゼをひく訳です。カゼをひくことに関して、異常だとかの特別な心配はいらないと考えてください。

終生免疫という言葉が出てきました。終生免疫とは一生免疫ともよばれ、免疫が持続し二度と同じ病気にかからないものです。一方、終生免疫に対するものとして、一過性免疫という言葉があります。これは、短期間しか免疫が

持続しないというもので、一度かかってでもまたかかってしまう可能性があります。終生免疫になる病気としては、麻しん以外には水痘、おたふくカゼなどがあります。一過性免疫には、普通のカゼ、ノロウイルスやロタウイルス等の胃腸炎をおこすウイルスなどが知られています。終生免疫と一過性免疫の違いはどこにあるのでしょうか。ひとつはウイルスの変異が関係しています。ウイルスに一度感染すると、その記憶は細胞の中に残っているのです。同じウイルスが再び体を攻撃すると、その記憶が呼び起こされ免疫の機能が働き始め病気を防ぐのです。ウイルスの変異とは、簡単にいうと形が少しだけ変わってしまうことです。形が変わると、別の種類のウイルスと認識され、同じウイルスでも以前の記憶が呼び起こされずに免疫が機能せずにかかってしまうのです。変異しやすいウイルスの代表はインフルエンザで、このような理由から毎年ワクチンが必要になる訳です。また感染する部位によっても免疫の強さが違ってくるといわれています。麻しん、水痘、おたふく等全身感染を起こす病気では免疫が強く残りやすく、ロタウイルスのように腸(粘膜)にだけ感染するような病気では免疫が弱く持続が短いといわれています。軽いカゼのウイルスも同様に感染範囲が狭いことが、免疫が一過性となり何度もカゼにかかる理由とされています。



ところが最近、終生免疫があれば一生かからないというのは、誤りといわれています。予防接種も終生免疫を持つと考えられていましたが、H19.6月号の新聞記事の“成人麻しん大流行!”のように、一度獲得した免疫も時間とともに低下することや麻しんとの接触が少なくなったことによって、免疫が維持できないことがわかってきたのです。同じように病気で獲得した免疫も、少しずつ病気と接触することによって免疫が一生続くのです。ウイルスに接触して、低くなりかけた免疫を持ち上げることを、ブースター効果と呼んでいます。ブースター効果が無ければ、終生免疫は続かないということになるのです。

“赤ちゃんはカゼをひかない”ということから、免疫のことを考えてみました。ちょっと難しかったかもしれませんが、免疫があれば病気にならないということがポイントです。ワクチンの効果は一生持続するものではありませんが、病気の予防という観点からは重要なことなのです。病気を予防するために予防接種を積極的に受けて、決められた回数や期間はしっかり守るようにしたいものです。

A broom with a yellow head and a wooden handle on the left. On the right, a child in a blue shirt and shorts is digging in the soil with a shovel. A speech bubble from the broom contains text.

11月のお知らせ

- ・診療時間変更(11月~12月中)
月・土曜日 健診・予防接種
14:00~15:00
- ・栄養育児相談
毎週水曜日 13:30~

読者の広場

先月は14通のメールを頂きました。先月号の一面記事“看護婦の心！親の心？”に対する感想と共感を若林区の相原さんから頂いたので紹介します。

「こんばんは(^o^)相原璃空・太琉の母です。先生・スタッフのみなさん、いつもいつもありがとうございます。お世話になる度に暖かい対応、感謝感謝ですm(_ _)m先日、受診した際に頂いたクリニックニュース…読みました(^o^)/感動で思わずメールをしました。佐藤さんのおっしゃる通り！私自身も不安な気持ちでクリニックを後にした事は一度も無く！ちょっとでも心配事があった時は、タイミングよく中米さん・佐藤さんが受診後に声をかけて下さいます。先生とはまた違ったアドバイスで、看護師さんとしての一言にとても“安心”を頂いてます。でもその度に…『これも先生の優しさなんだなあ』と感謝で涙腺がゆるみます。また、佐藤さんは“母親は心配する生き物”だと言う事もおっしゃってましたが、私なんかは人一倍心配性で…。週末の受診ともなると、薬の事など色々気がかけて頂いているので、いつも安心して帰る事ができてます。入院をした患者さんの所へ様子を診に行くなど…多忙の先生の思いやりには脱帽です。『使わないのが一番いい、御守りに持って下さい』なんて言い方も先生らしい言い方ですよ。今回改めて、先生を始め、スタッフのみなさんへの信頼が深まりました。患者の気持ちをおおいに理解した上での対応に心強さを感じます。これからもどうぞヨロシクお願い致します。ありがとうございます☆」。新聞記事がどの程度読まれているかと、いつも心配しながら掲載しています。記事への感想はとてありがたいものです。佐藤君の気持ちを理解頂いただけでなく、スタッフやクリニックの対応へのお誉めの言葉本当にありがとうございます。全ては当院の理念「お母さんの心配・不安の解消」に基づくものです。もうひとつ、柴田郡川崎町から1時間30分以上かけて通院してくれる稲村さんからのメールです。「こんにち。先にお世話になりました、稲村太星の母です。いつもお世話になってます。初めてメールさせていただきます。太星の状態は、土曜日の夜中までは熱が続きましたが、日曜日は熱をだすことなく過ごすことができました。月曜日の朝には、食欲ももどりもちろん熱もなく、私の仕事を休めないという理由もありましたが、元気に保育所に行きました。とびひの方もほんと良くなりました。土曜日に来院したときに、先生は、「僕は神様じゃないからね」とおっしゃいました。私は、先生は神様よりも本当にありがたい方だと思っています。神様は言葉にしてくれないけど、先生はひとつひとつ紙に書きながら、わかりやすい言葉でゆっくりと話をしてくれます。本当に本当に安心できます。ありがとうございます。家から遠いというのを理由に、状態が悪くなってからの来院や、時間ぎりぎりの来院で、本当に申し訳ないと思っています。今回も、本来ならこちらから状態の報告の電話をしないとイケないのに、またまた先生の方からお電話をいただいて、ありがとうございました。これからもどうぞよろしく願います。まとまりのない文章になっているかと思いますが、笑って許していただけたらと思います。」。もちろん自分は神様ではありませんが、そんなふうに言われると嬉しくなってしまう。開業当初、新聞に書きましたが、自分は長年新生児医療に従事していました。新生児医療を通して、医療と同じくらいお母さんの精神的ケアの重要性を学びました。お母さん達の悲しみの涙と喜びの涙で、医師として育てられたと言っても過言ではありません。その思いが、クリニックの理念に繋がっているのです。育ててもらったお返しに、多くのお母さん達に恩返しをしたいと思って取り組んでいるのです。そのところを認めてもらえることは、本当に嬉しいことです。ありがとうございました。



スタッフ募集

看護師さんを募集しています。

基本的にはパートさんが希望ですが、常勤の方でも構いません。正看・准看を問いません。当院の理念のもと情熱を持って働ける人が希望です。

勤務時間等の詳細は面談の上。希望の方は受付まで。

予防接種のお知らせ

インフルエンザワクチンの予約・接種が始まりました。
13歳以上は原則1回、13歳未満は2回接種です。

料金(1回) 3000円(消費税込)

少子化対策というほどではありませんが、3人目のお子さんからの接種料金は2000円(1回)にしました。

お母さんクラブの御案内

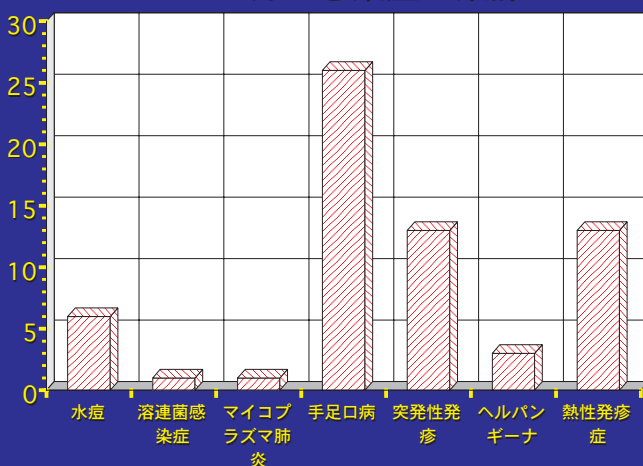
インフルエンザ ちょっと怖い病気!?

11月20日(木) 14:00~ 幸町市民センター

そろそろインフルエンザの季節です。インフルエンザとは、タミフルの問題などと共に、病気の対処法についても学びましょう。今回は会員以外の参加も可能です。希望者は受付まで。

相変わらず手足口病が多いですが、先月よりは減少しています。一時ほとんどみられなくなった水痘が、多少増加傾向です。今頃ヘルパンギーナがみられるのは、地球温暖化の影響でしょうか。10月末に長町南小学校でインフルエンザによる学級閉鎖がありましたが、その後の拡大はないようです。

10月の感染症の集計



編集後記

また1年で一番忙しい時期がやってきました。インフルエンザのワクチン接種者が多くだけでなく、様々な病気が、これから流行します。待ち時間等でご迷惑をお掛けすることがあるかと思いますが、ご理解の上ご協力をお願いします。



麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『小学校入学前にも麻しん風しん混合ワクチンを』
Ⅲ期(中学1年生相当)、Ⅳ期(高校3年生相当)も忘れずに!